

補習校で無理なく使える ICT の知恵を

8月10日

1. 今年度のこれまでの取り組み状況（各グループ）の確認

（1）ICT を活用した授業（オンライン授業、対面授業、ハイブリッド授業）で、先生方や児童生徒がアプリを使った実践を行い紹介する。

担当・・・北山先生、馬橋先生

- ・数学（中1）で「ラウンジ」というアプリを使って授業を行った。クイズ形式で生徒が答えるもので、今後も試行していきたい。
- ・理科でも振り返りを行うアプリを使うなど、「こんな時にどんなアプリが使えるのか？」という視点で実践を続けていく。

（2）学校間のつながり（交流学習）、合同授業の実践例を研究する。

（インターネットを利用して）

担当・・・岩間先生、西尾先生、西村先生

- ・西尾先生のシアトル四つ葉学院で、ワシントン州日本文化会館の方をゲストティーチャーに迎え、オンラインで平和教育学習を行った。岩間先生の教室の児童や保護者も Zoom で参加し、戦争当時の様子を児童のおじいちゃんに質問するなど特別授業を行った。
- ・立命館小学校とシアトル四つ葉学院で共同研究授業を予定している。（詳細についてはパドレットに掲載している）

（3）ICT を使う環境や ICT を取り入れる良さについて研究する。

（児童生徒の年齢・学年に即した実施方法など）

担当・・・嶋野先生、モース先生、フレミング先生

- ・世界中の日本語教育に携わっている学校（規模を問わず）が無理なく利用できる ICT を取り入れた教育を提案するために、まずはどの規模の学校が、どの学年を、どんな環境（学校施設）で、どの程度の頻度で、授業をしているのか等の基礎情報を収集するためにアンケート調査を行う。

また、補習校によっては、ICT を活用するための先生方のクオリティも様々だと思うので、サポートの仕方なども考慮して進めていくとともに、グループ1やグループ2との連携についても取り組んでいきたい。

※補習校グループの取り組みの「授業研究会」を実施する先生方に、ICT を活用した授業実践を通して多様な児童生徒が共に力を伸ばす学習活動をお願いし、その実践を紹介する。

2. その他（9月17日の研究会に向けて）

- ・グループの先生方で連絡をとって今までの取り組み内容についてまとめ、研究会に参加する登録者へ説明できるように準備する。